

文学的文章において、叙述を基に考えを比較しながら解釈を深めることができる生徒の育成

—多様な考えが生まれる表現活動リライトを取り入れた授業改善—

特別研修員 国語 荒木 崇史(中学校教諭)

生徒の実態

- 叙述を基に根拠となる文、文脈や前後の関係を繋げて読むことが苦手である。
- 他者の考えを生かしながら、自身の考えを深めようとすることに課題がある。

教師の願い

- 叙述や描写、文脈や情景、場面、人物関係を結び付けて心情や人物像を捉えてほしい。
- 解釈を比較しながら、多面的な見方で自身の解釈を深めてほしい。

実践事例 読むこと (1) イ・エ
 単元名 語り手に着目して読み、解釈や考えたことを伝え合おう
 教材名 少年の日の思い出

つかむ

初発の感想

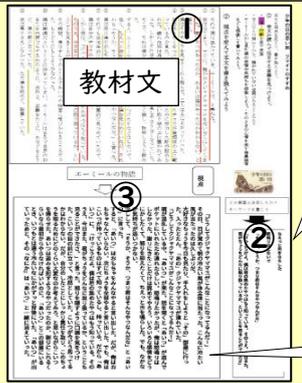


エーメールは意地悪な奴だと思う。でもなぜ、エーメールはチョウを壊されたのに怒らなかったのかな。過去の話がどのように現在の場面につながっているのだろう？

【手立て①】 視点を変えて書き換えるリライトとリライト文の交流の設定

リライトの手順

- ①エーメールの行動・心情描写にサイドラインを引く
 - ②着目する言葉を抽出し、エーメールの心情を想像する
 - ③視点を変えて書き換える
- ※可能なら情景描写を工夫する



【生徒が着目した言葉】
 ・冷淡
 ・冷然
 ・軽蔑的に
 ・あなどる
 ・ただ僕を眺めて
 (一部抜粋)

エーメールはチョウを壊されたし、言い訳をする僕に悲しんでいるのかな。
 (リライト文)
 そのとき頭の中
 何がプチンと切
 れた音がした。彼
 言いついては切
 た。心の中は怒り
 悲しみていつぱい
 だ。体が冷たいよ
 だ。だが、どうも
 だ。だって彼に呆
 くの。どうも呆れ
 たの。どうも呆れ
 (一部抜粋)

追究する



エーメールはどんな人なのか？リライト文をもとに交流してみましょう。



どうしてエーメールを悪者と解釈してしまったのでしょうか？

「冷淡」ではなく「冷静」って言葉を使ったのはどうして？

怒りたいけど我慢していたんだと思うよ。裏切られて悲しかったんじゃないかな。

なるほどね。「僕」をチョウ集めの仲間だと信じていたから悲しかったのかもね。

悪徳とかこっぴどい批評家って書かれていたから嫌な奴だと思ったけど、「僕」の勝手な解釈だよ。

「僕」視点で書かれているから「僕」の気持ちの方が強く感じるよ。だからエーメールのことを悪く読み取ってしまったんだよ。

【手立て②】 解釈の比較場面の設定

生徒が考えた「私」の台詞

後悔しているのは君だけではないだろう。無理には言わないが、少しでも悪いと思うなら心の底から謝してみないか。エーメールは君を信じていたんじゃないか。

何年間も一人で抱えていて辛かったらう？よく私に話してくれたな。話してみよう？少しでも心は軽くなったか？重く考えすぎないで。今反省しているなら大丈夫だ。



思い出を語り終えた「客」に「私」は何を語るのでしょうか？考えを伝え合ひましょう。

いろいろな「私の台詞」があっっておもしろいな。「僕」が大人になっても思い出を引きずっていることが分かったよ。

まとめる

単元の振り返り



初めて読んだ時はエーメールは悪者のような気がしたけど、リライトしたことで、二人には価値観の違いがあって、「僕」とエーメールの気持ちはずれ違っていることが分かった。この作品はエーメールの心境をわざと書かずに、「僕」の視点で描くことで、本当に悪かったのは誰なのかを考えさせるようにしたのではないだろうか。現在の場面があることで「僕」が大人になっても苦しんでいるということが伝わってきた。視点を変えて読むことで、気付かなかったことにも気付いたので今後は視点を意識して読んでいきたい。

目指す生徒像 叙述を基に考えを比較しながら解釈を深める生徒

成果

- 物語を書き換えるリライトを取り入れたことによって、叙述や前後の文脈、登場人物の関係に着目して作品を読解しようという意識をもって文章を読むことができた。
- リライト文を交流したことで「語り手」にも着目することができ、その効果に気付くことができた。初読の際の読み取りとは異なった読解につながり、解釈を深めることができた。

課題

- ・リライト文を基に解釈の根拠を明確にするための交流が不十分であった。交流の時間を十分に確保し、叙述を根拠に挙げながら、自身の解釈を説明できるよう手立てを工夫する必要がある。